

## 第2章 総社市における自殺の現状と課題

### 1 自殺死亡率・自殺者数の推移(平成29年～令和5年の7年間の推移:国・県・市)

本市の自殺死亡率（人口10万人対）は、全国や岡山県と比較し、年によって自殺死亡率の増減が大きくなっています。令和2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響から23.08人と過去7年間で最多になっています。

図1 自殺死亡率（人口10万人対）の推移

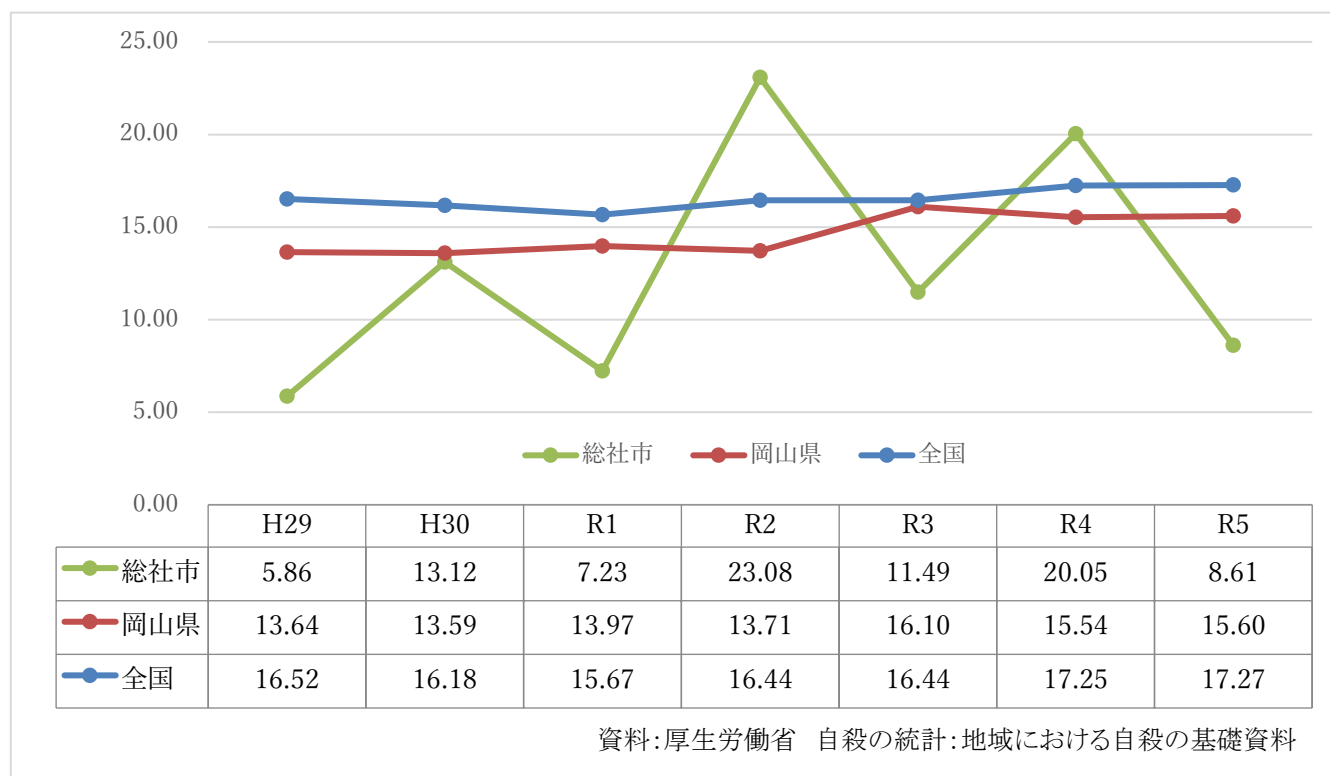


表1 自殺者数（人）の推移

|     | H29    | H30    | R1     | R2     | R3     | R4     | R5     |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総社市 | 4      | 9      | 5      | 16     | 8      | 14     | 6      |
| 岡山県 | 263    | 261    | 267    | 261    | 305    | 292    | 291    |
| 全国  | 21,127 | 20,668 | 19,974 | 20,907 | 20,820 | 21,723 | 21,657 |

資料:厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料

## 2 年代別自殺死亡率（人口 10 万人対）（平成 30 年～令和 4 年の平均値）

全国や県と同様に，男性は女性よりも高い傾向にあります。特に本市では，男性は 20 歳代，30 歳代，女性は 50 歳代が高くなっています。

図 2 男性・年代別の平均自殺死亡率（10 万対）

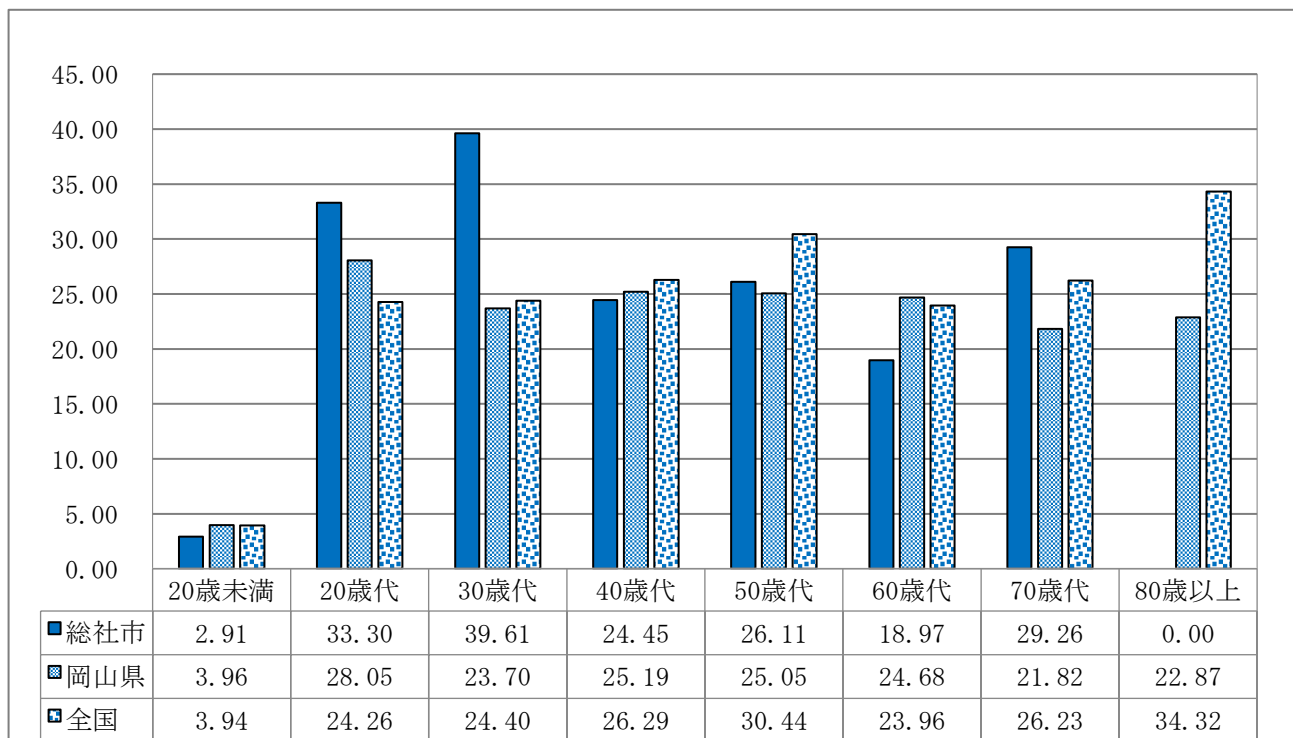
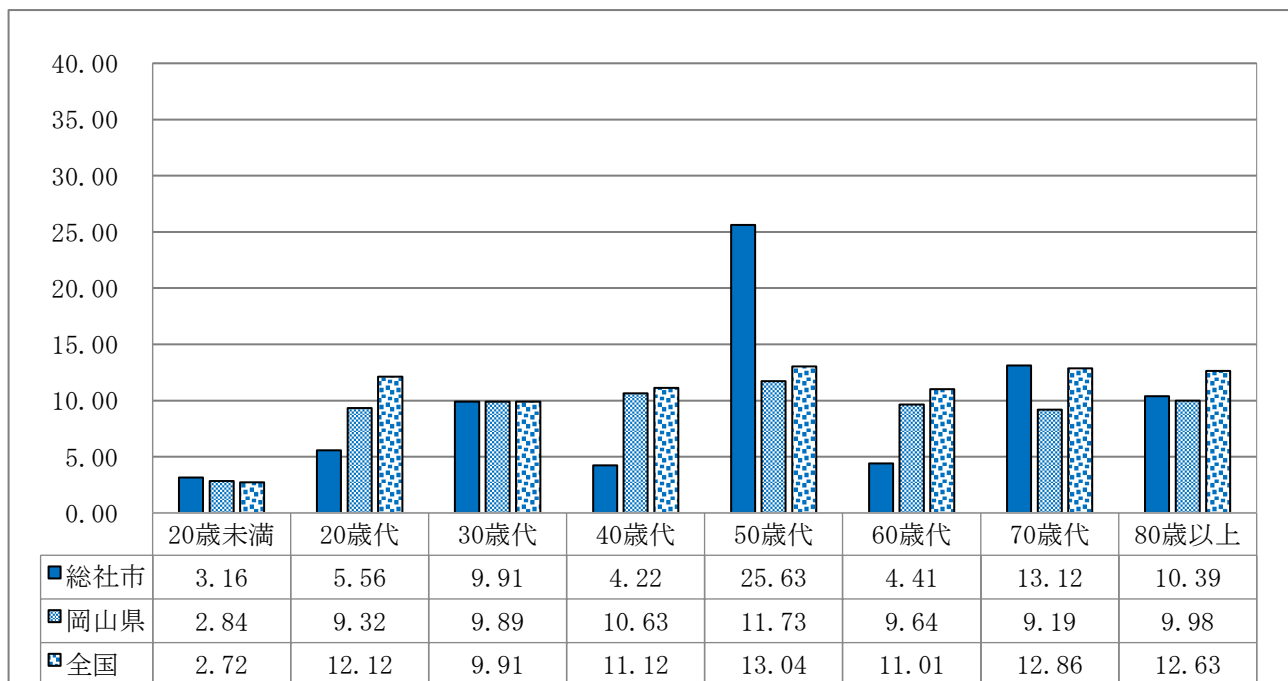


図 3 女性・年代別の平均自殺死亡率（10 万対）

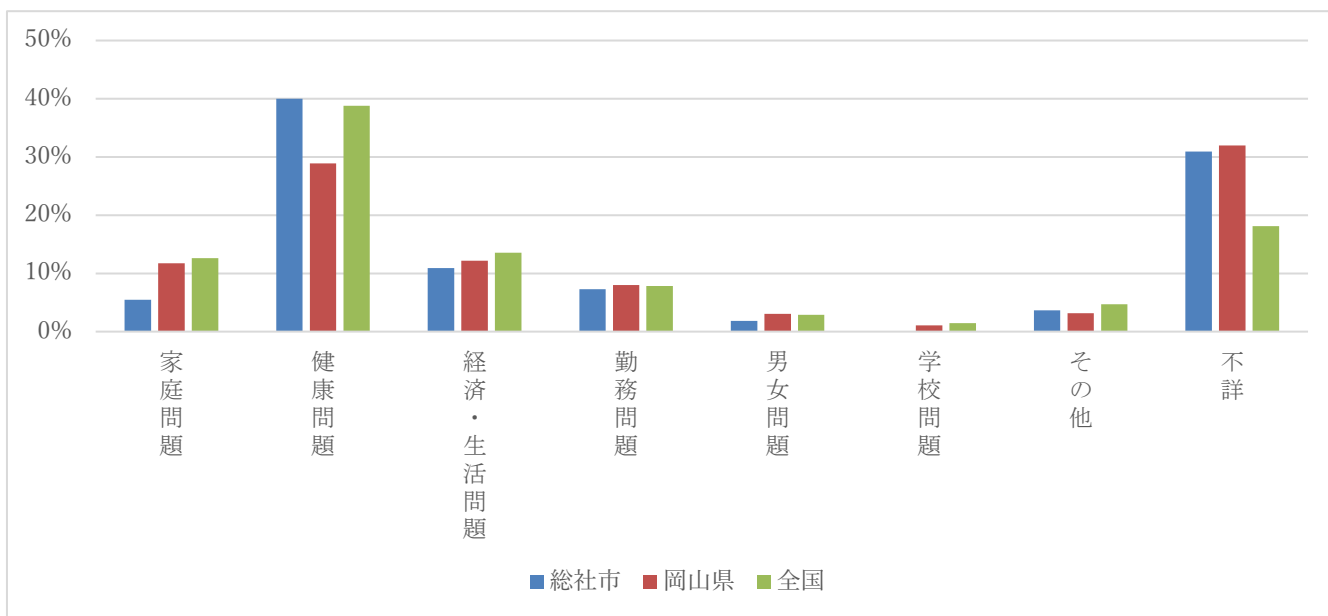


資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2023)」

### 3 原因・動機別の状況(平成30年～令和4年の累計:市・県・国)

自殺の原因や動機は、健康問題の割合が高くなっています。しかし、自殺は様々な原因が複合的に連鎖することで引き起こされると言われています

図4 原因・動機別の構成割合(%)



資料:厚生労働省 自殺の統計:地域における自殺の基礎資料

### 4 年代・職業の有無・同居人の有無の状況(平成30年～令和4年の累計:市・県・国)

図5 職業の有無と同居人の有無と構成割合(男性)

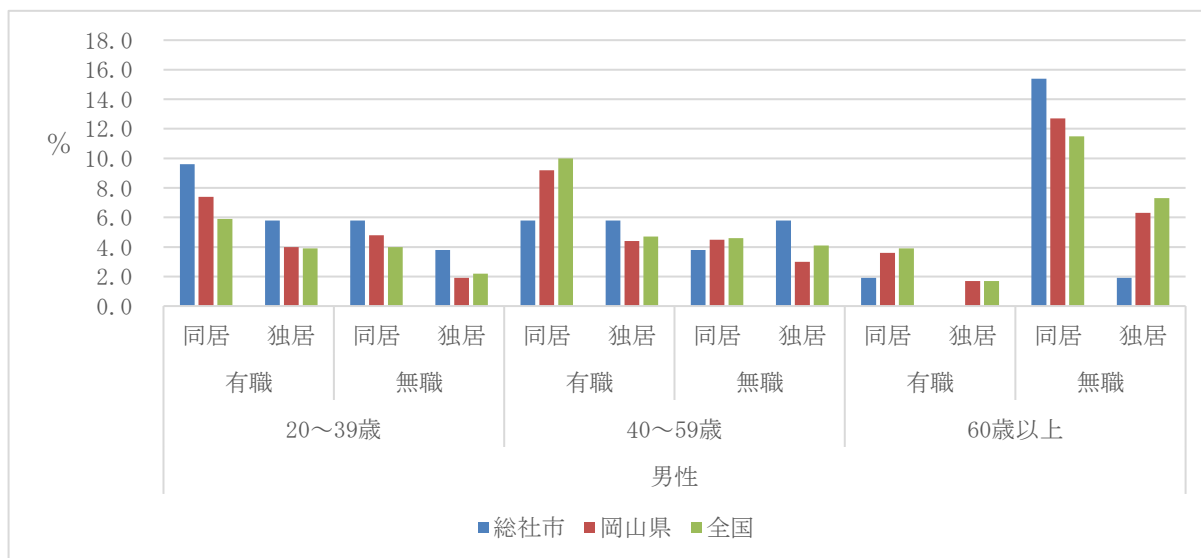
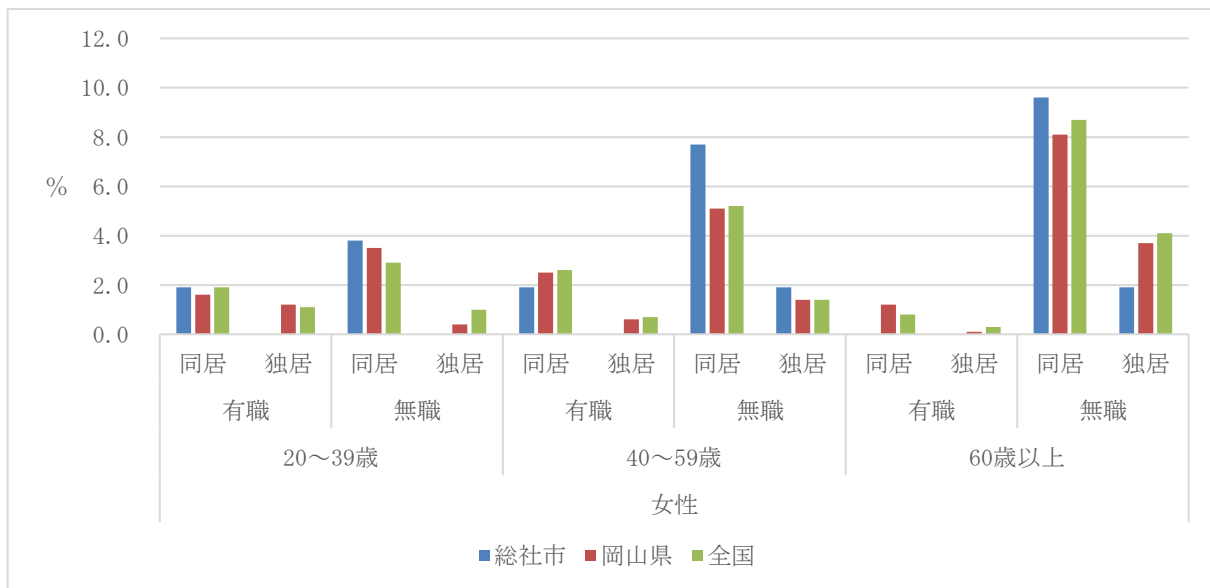


図 6 職業の有無と同居人の有無と構成割合（女性）



資料:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2023)」

## 5 総社市の主な特徴(平成 30 年～令和 4 年の累計:市)

図 5・6 のまとめとして、表 2 に自殺者の特性上位 5 区分の自殺者数や割合、自殺者の特性別に見た、代表的と考えられる危機経路の一例を示しています。

男性・女性ともに「60 歳以上無職同居」の割合が高くなっています。次に男性では「20～39 歳有職同居」、女性では「40～59 歳無職同居」の割合が高くなっています。

表 2 総社市の主な自殺者の状況

| 自殺者の特性上位 5 区分      | 自殺者数<br>(5 年計) | 割合    | 自殺死亡率*<br>(人口 10 万対) | 背景にある主な自殺の危機経路**                          |
|--------------------|----------------|-------|----------------------|-------------------------------------------|
| 1 位:男性 60 歳以上無職同居  | 8              | 15.4% | 29.6                 | 失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)<br>+身体疾患→自殺          |
| 2 位:男性 20～39 歳有職同居 | 5              | 9.6%  | 20.7                 | 職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)<br>→パワハラ+過労→うつ状態→自殺 |
| 3 位:女性 60 歳以上無職同居  | 5              | 9.6%  | 11.5                 | 身体疾患→病苦→うつ状態→自殺                           |
| 4 位:女性 40～59 歳無職同居 | 4              | 7.7%  | 25.2                 | 近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺                     |
| 5 位:男性 40～59 歳無職独居 | 3              | 5.8%  | 502.3                | 失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺                         |

資料:自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2023)」

「自殺死亡率\*」の算出に用いた人口は総務省「令和 2 年国税調査」就業状態等基本集計をもとに JSCP が推計。

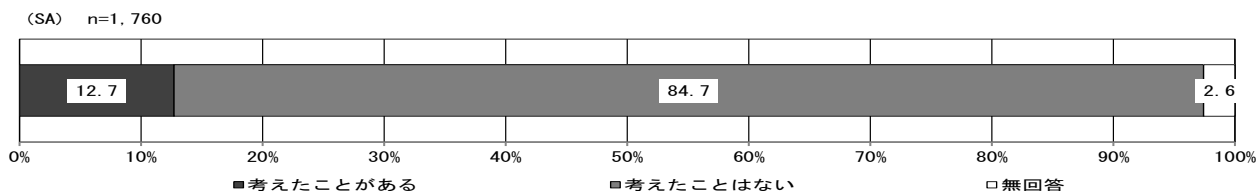
「背景にある主な自殺の危機経路\*\*」はライフリンク「自殺実態白書 2013」を参考に推定したもの。

## 6 令和5年度総社市健康づくり・生活習慣に関する調査結果報告より(抜粋)

※調査結果の詳細については 37 ページを参照してください。

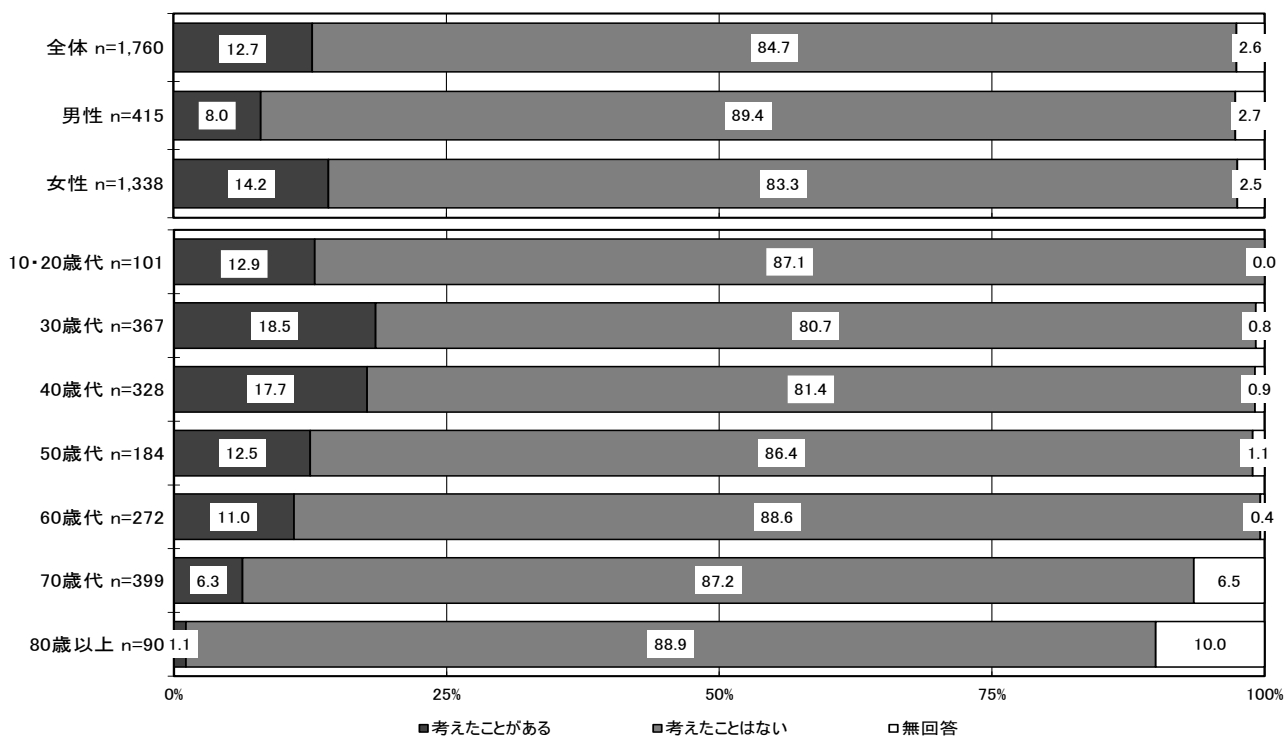
(1) これまでの人生の中で、本気で自殺したいと考えたことがありますか。

「考えたことがある」が 12.7%を占めています。



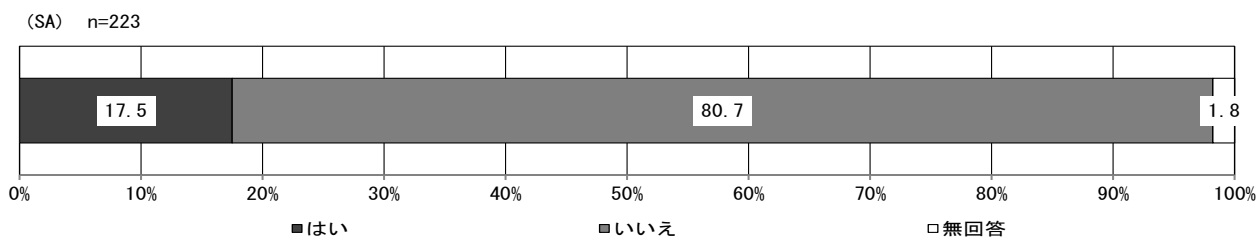
(2) 性別・年代別

男性より女性の方が「考えたことがある」が高くなっています。年代では、30歳代・40歳代が高くなっています。



(3) 1年以内に考えたことがありますか。

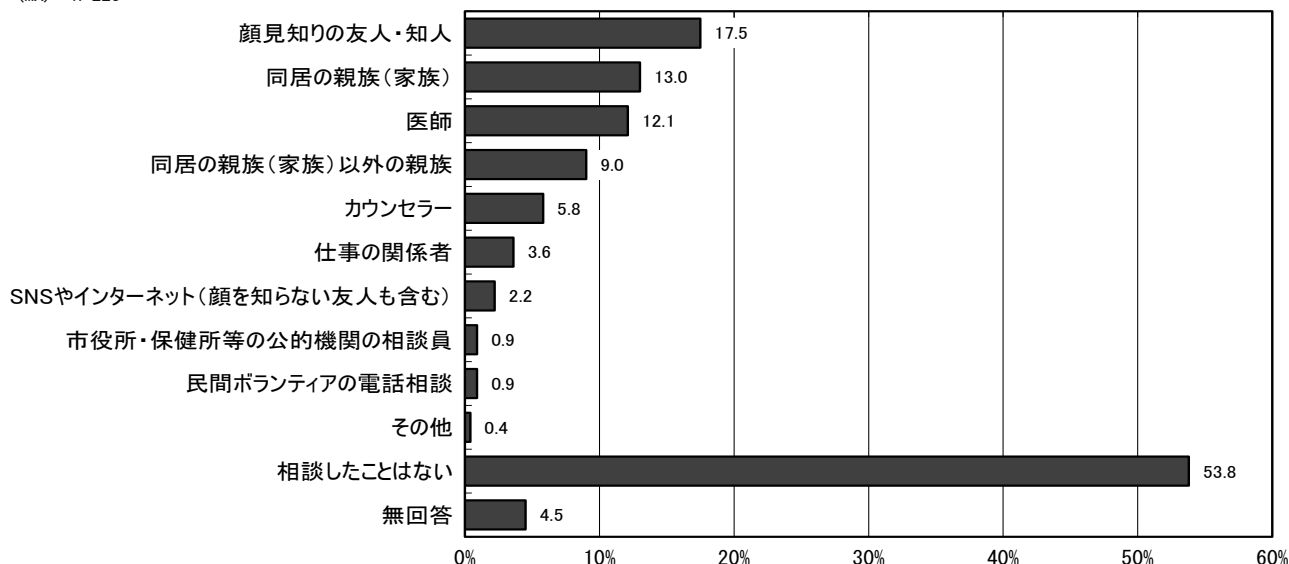
「はい」が 17.5%を占めています。



(4) そのように考えた時、誰かに相談したことがありますか。(複数回答)

「相談したことはない」が53.8%で突出しています。「顔見知りの友人・知人」が17.5%、「同居の親族(家族)」が13.0%で続いています。

(MA) n=223



令和5年度総社市健康づくり・生活習慣に関する調査結果報告(以下「市アンケート調査結果」という。)より、「これまでの人生の中で、本気で自殺したいと考えたことがありますか。」の問いに対し、12.7%の方が「考えたことがある」と答え、その中でも1年以内に考えたことがあるが17.5%となっており、自殺は、身近な問題だと考えられます。

また、「そのように考えた時、誰かに相談したことがありますか。」の問いに対し、「相談したことはない」が53.8%となっています。相談先としては、市役所・保健所等の公的機関の相談員よりは、身近な顔見知りの友人・知人、同居の家族の占める割合が高くなっています。